

伊佐市水道事業経営戦略の見直し

～令和 6 年 3 月～

計画期間：平成 3 1 年度～令和 3 0 年度
(2019 年度～2048 年度)

伊佐市水道事業

目 次

第1章 見直しの背景

- 1 見直しの趣旨
- 2 計画期間
- 3 経営戦略の位置付け

第2章 水需要の状況と見通し

- 1 給水人口と有収水量の推移
- 2 経営の状況と見通し

第3章 投資・財政計画

- 1 施設整備計画
- 2 管路更新計画
- 3 中長期の投資額の見込み
- 4 財源試算
- 5 投資・財政計画

第4章 計画の推進と点検・進捗管理の方法

第1章 見直しの背景

1 見直しの趣旨

伊佐市水道事業は、平成31年（2019年）に「伊佐市水道事業経営戦略」を策定し、水道事業の効率化・健全化への取り組みを進めてきました。

今回、経営戦略策定が令和5年度末で5年を経過することから、更なる中長期的な投資と財政の両面から今後の経営の方向性を見据え、これまでの財政投資による事業計画と経営成果を検証し、安定した経営基盤の維持強化及び財政マネジメントの向上を図るため見直すものです。

○見直しを行った内容

（1）水需要の見直し

計画と実績の分析を行い、将来の見直しについて予測。

（2）投資・財政計画

①中長期の投資額の見直し

②水道料金改定時期の見直し

③上記2点を踏まえた投資・財政計画の見直し

2 計画期間

前回計画期間である平成31年度～令和30年度（2019年度～2048年度）の30年間は変更しないものとする。

3 経営戦略の位置付け

前回計画時と同じ位置付けで見直しするものとする。

第2章 水需要の状況と見通し

1 給水人口と有収水量の推移

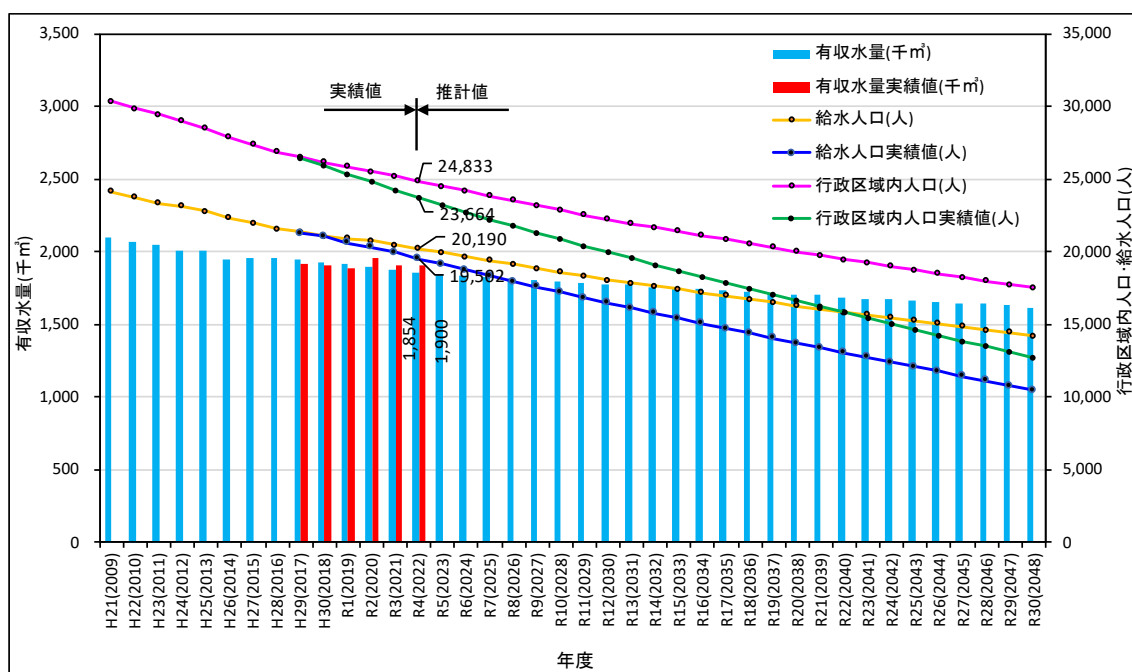
1) 給水人口

給水人口は急速な減少を続け、前回計画の推計では、令和30年(2048年)には、14,200人となる見込みでしたが、計画から5年間の実績をもとに見直した結果、10,442人とさらに減少が加速する見込みです。

2) 有収水量

前回計画の推計では、令和30年(2048年)には1,288千 m^3 となる見込みでしたが、今回見直した結果1,616千 m^3 になる見込みです。

図1. 給水人口と有収水量の実績と将来見通し



2 経営の状況と見通し

1) 給水収益の状況と見通し

料金収入は有収水量の減少に比例し年々減少しています。

令和2年～4年においては、コロナ禍により外出自粛で在宅時間が増加した影響から使用水量、料金収入が増加したと考えられます。

しかし、今後はコロナ禍前と同じような減少傾向が続いていくことが予想され、令和15年度(2033年度)からは給水原価が供給単価を上回る原価割れの状態となる見込みです。

図 2. 有収水量と料金収入の推移(見直し)

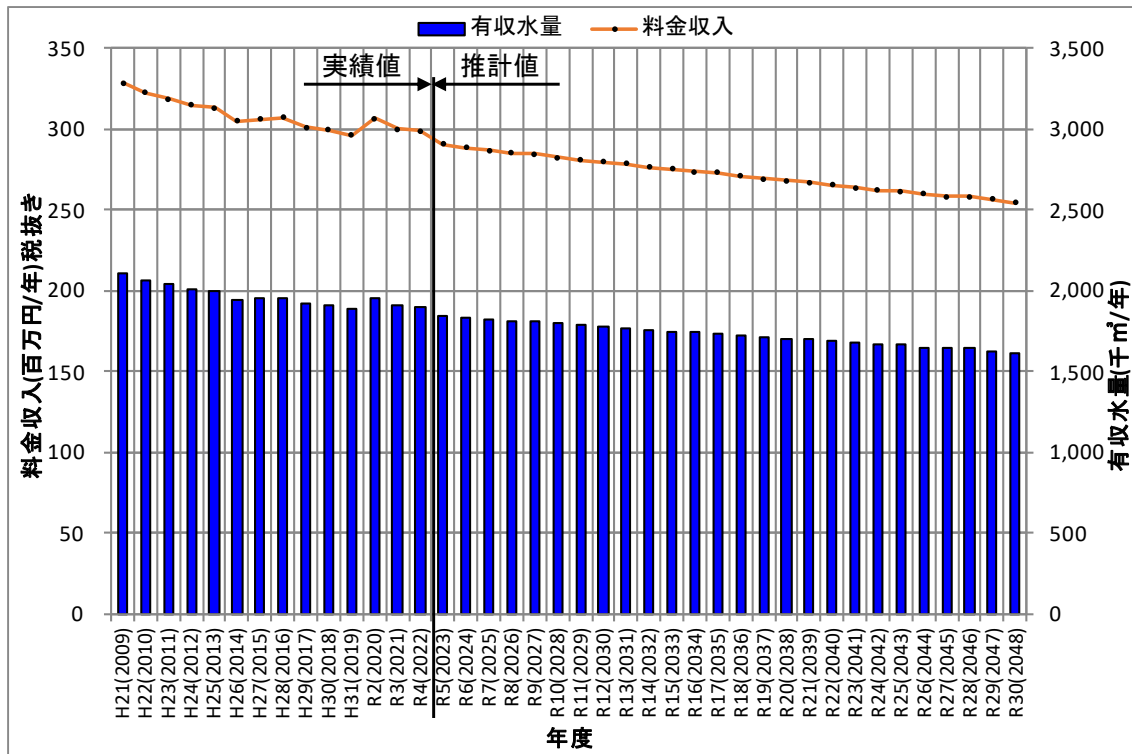


図 3. 有収水量と料金収入の推移(計画)

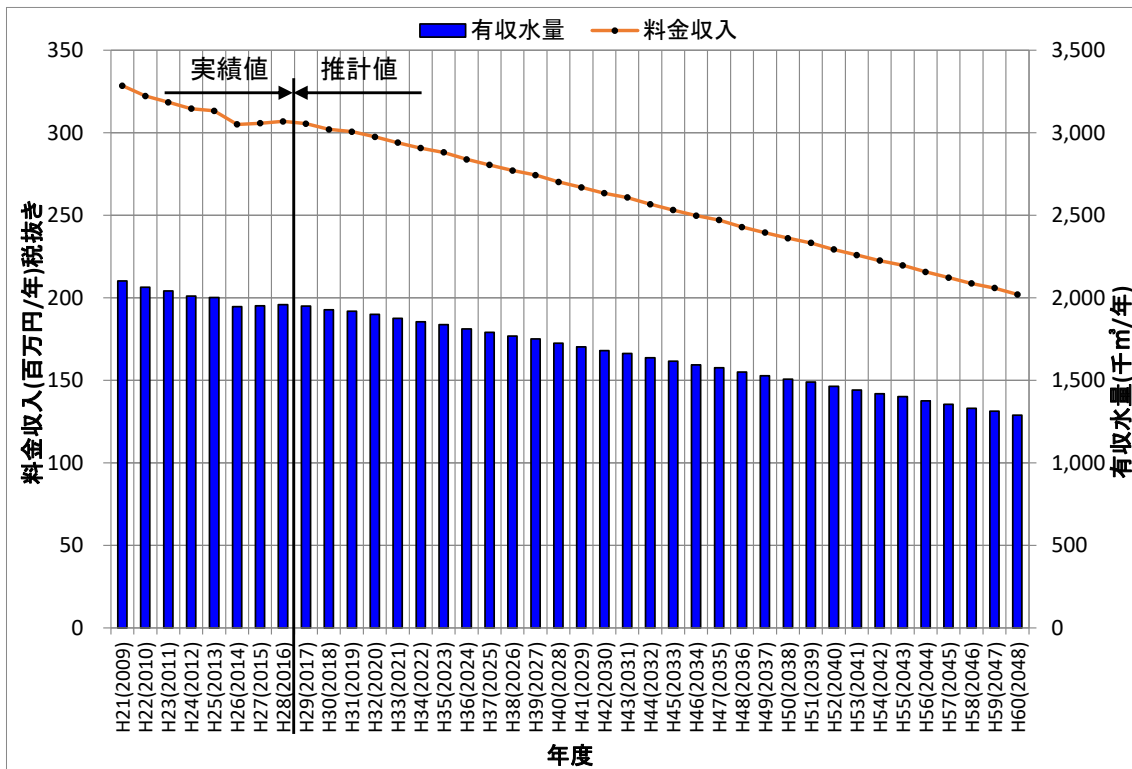


図 4. 供給単価と給水原価の推移(見直し)

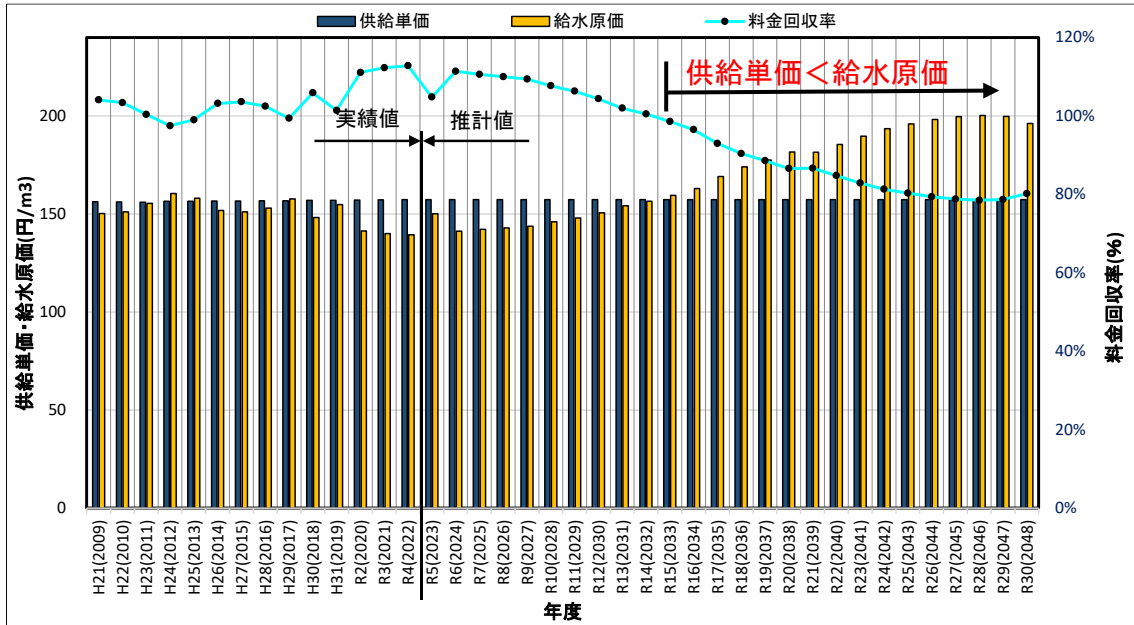


図 5. 供給単価と給水原価の推移(計画)

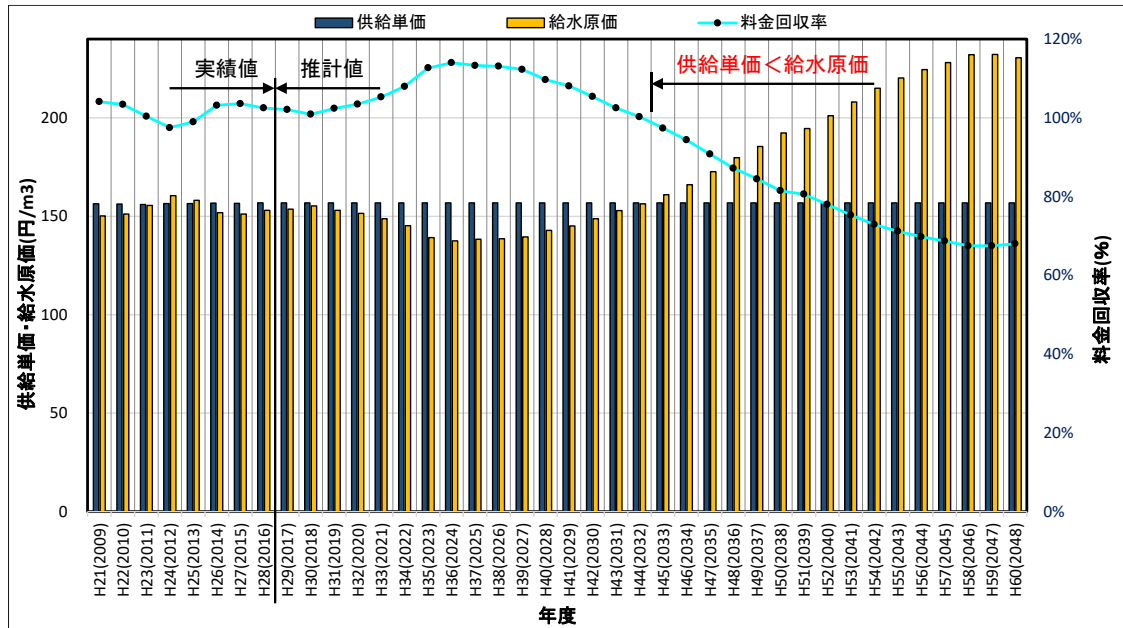


図 6. 建設改良費と料金収入の推移(見直し)

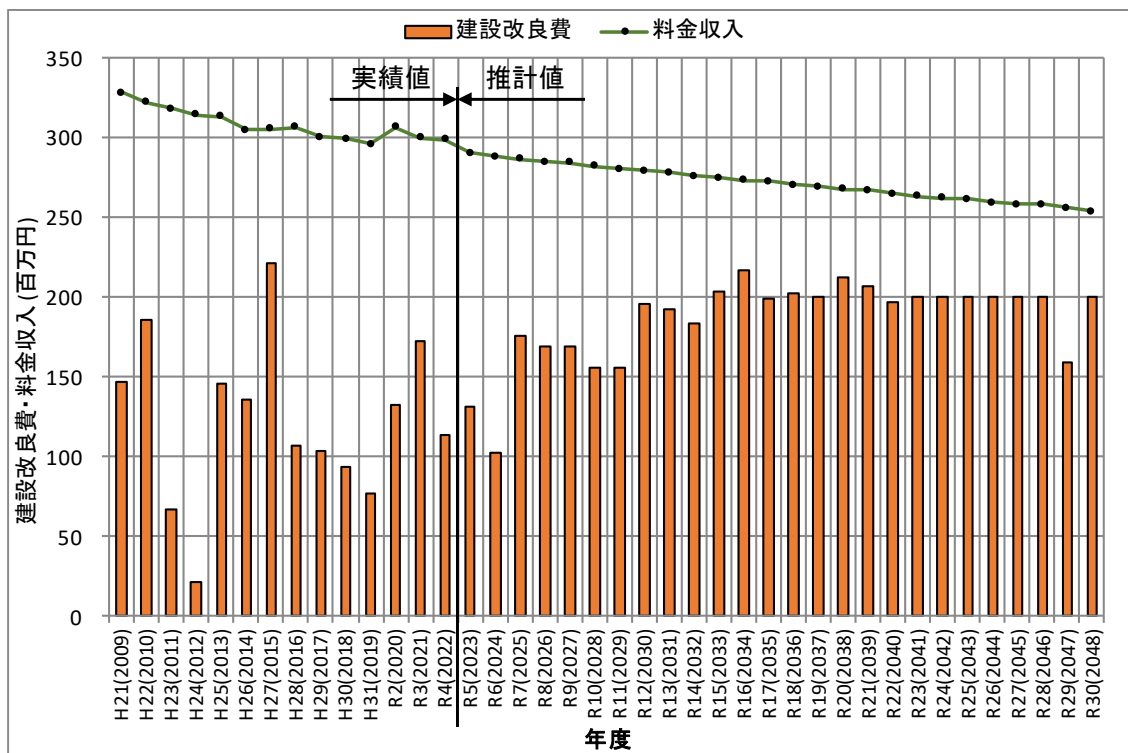
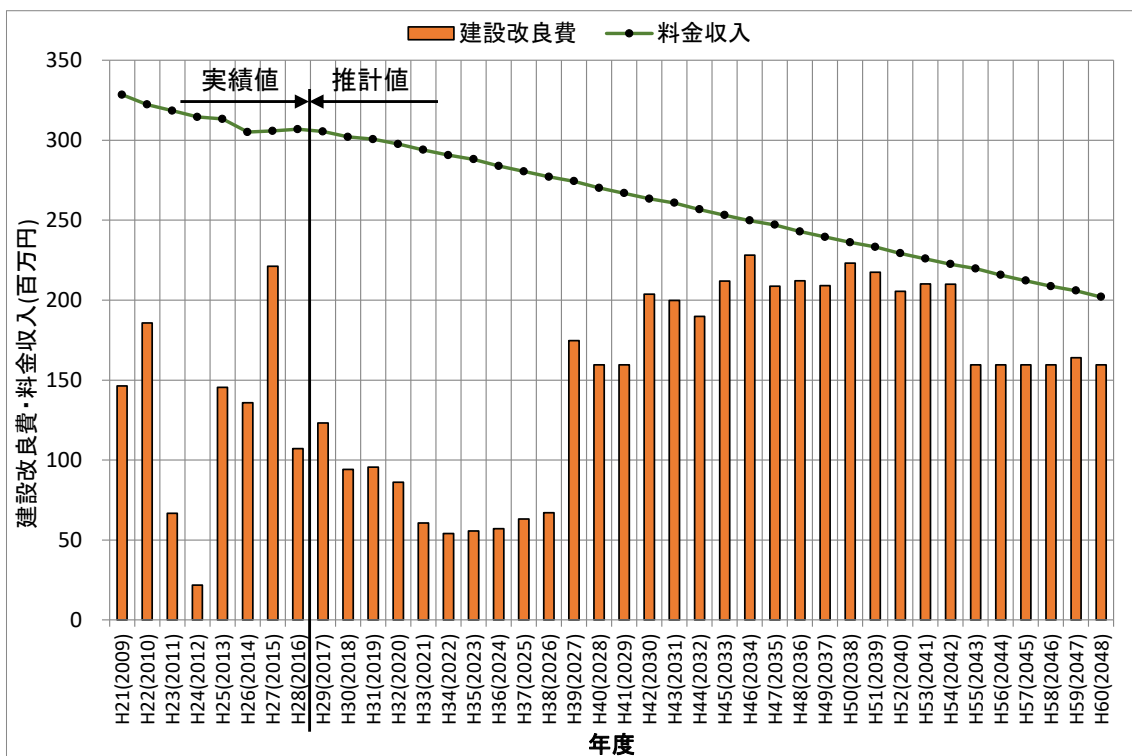


図 7. 建設改良費と料金収入の推移(計画)



2) 財政の状況と見通し

(1) 経常損益

現在、経常損益は黒字を維持しています。

前回計画の見通しと同様に水需要の減少に伴う料金収入の減少と増大する建設改良工事の減価償却費等の増加で令和 16 年度(2034 年度)からは赤字になることが見込まれ、厳しい財政状況が続くと予想されます。

図 8. 経常損益の見通し(見直し)

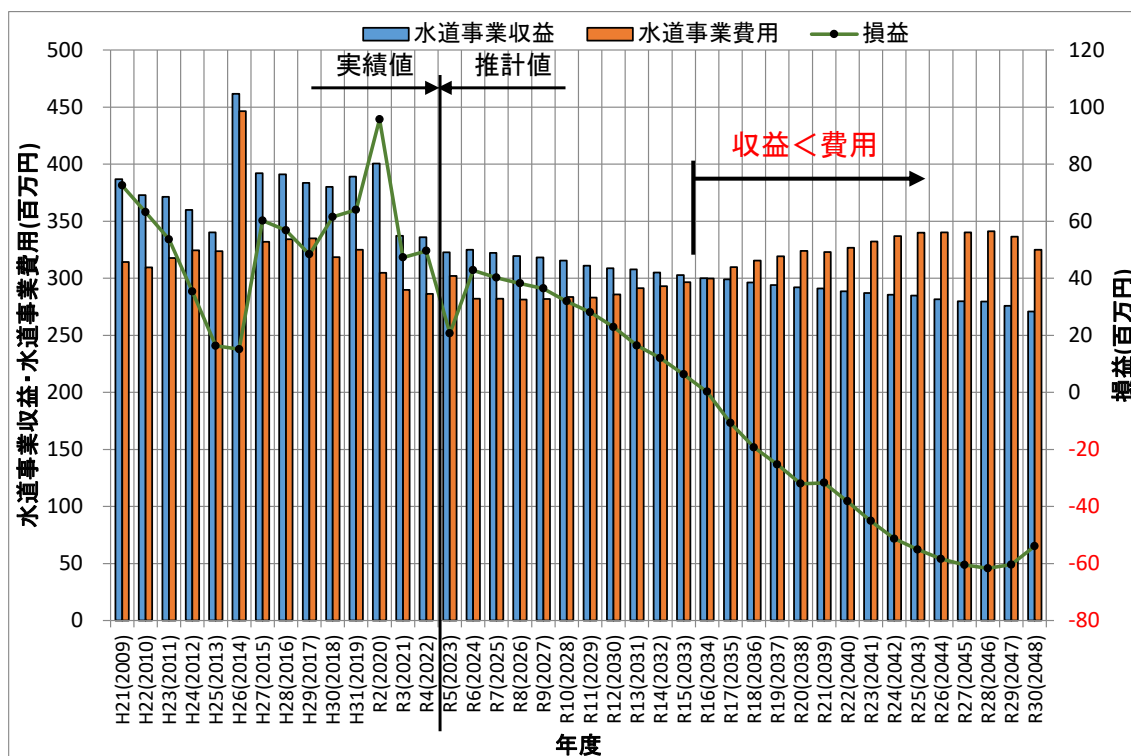
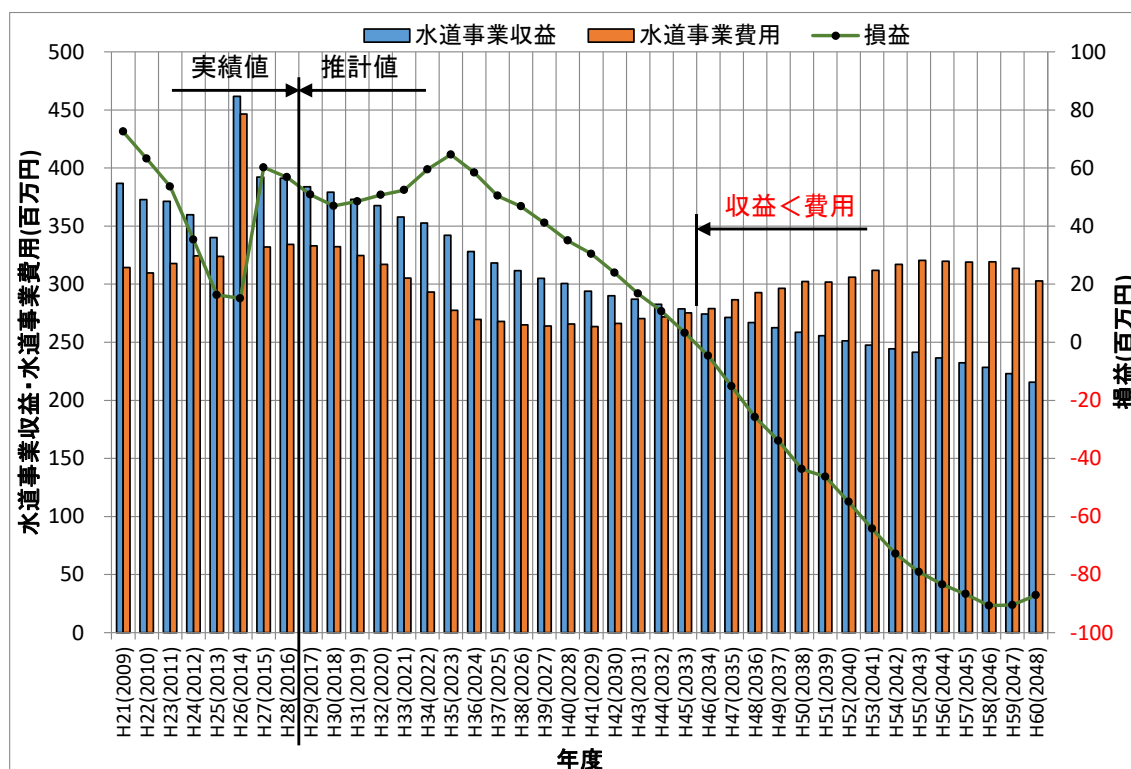


図 9. 経常損益の見通し(計画)



(2) 企業債残高の推移

企業債残高は、年々着実に減少しています。

しかし今後、老朽管や施設の更新等を実施していくにあたり、そのための多大な資金が必要になるので増加する傾向と見込まれます。

図 10. 企業債残高の推移(見直し)

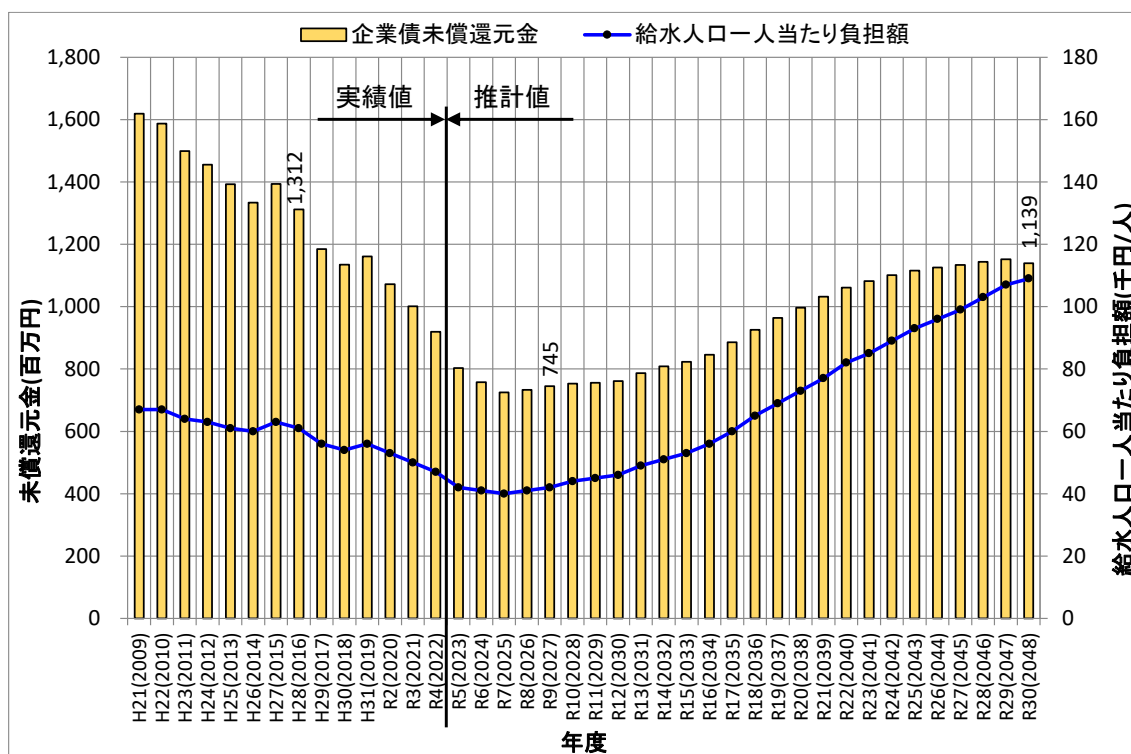
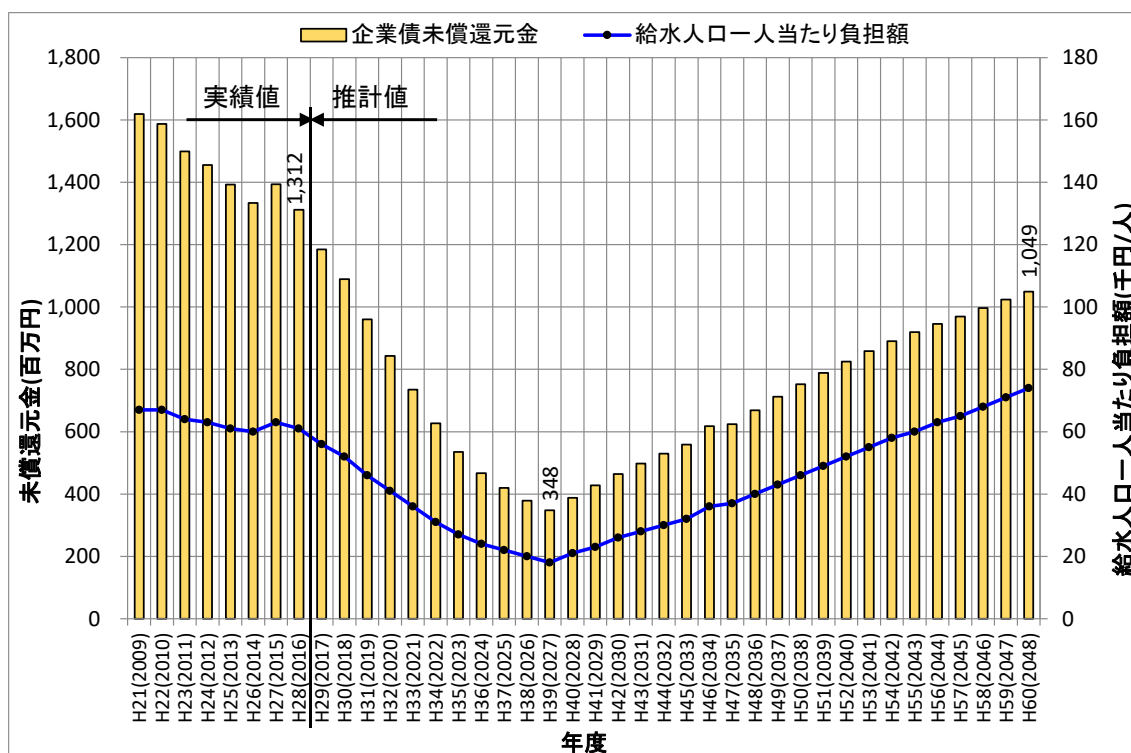


図 11. 企業債残高の推移(計画)



(3) 資本的収支の推移

資本的収支は、平成 30 年から令和 3 年は増加したが、その後はほぼ横ばい状態で推移しています。また、補填財源は令和 12 年までは増加する傾向にあるが、それ以降は管路や施設の更新費用に補填するため補填財源の枯渇が見込まれます。

図 12. 資本的収支の推移(見直し)

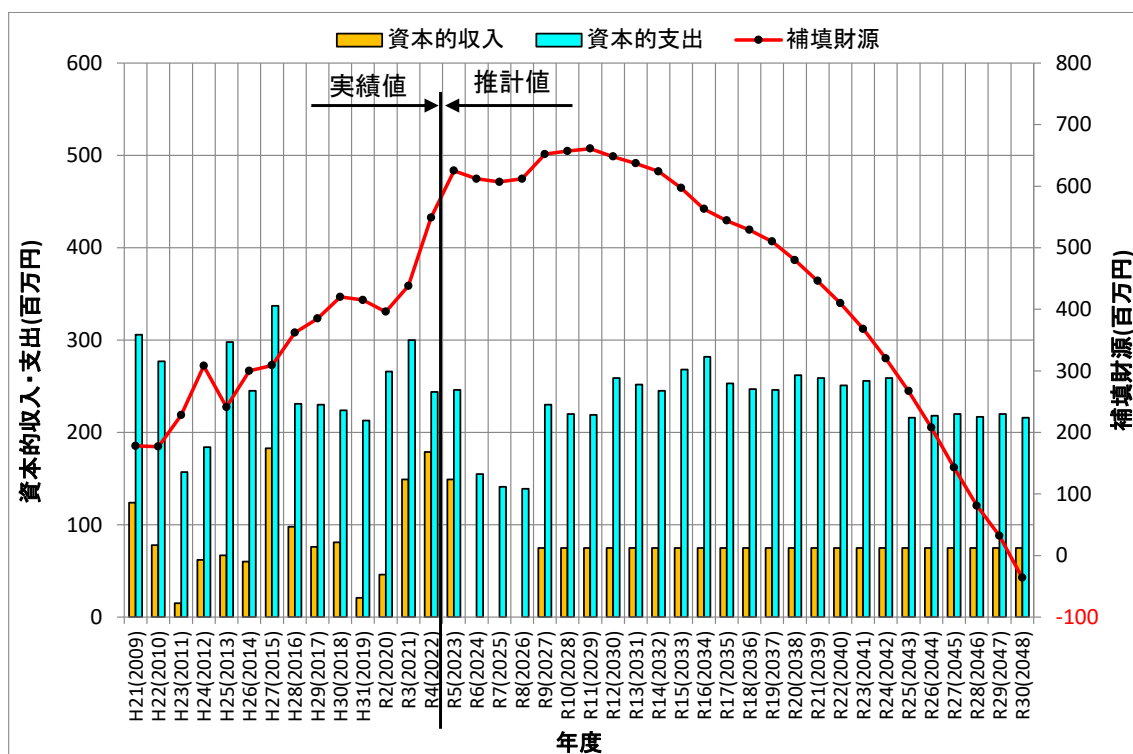
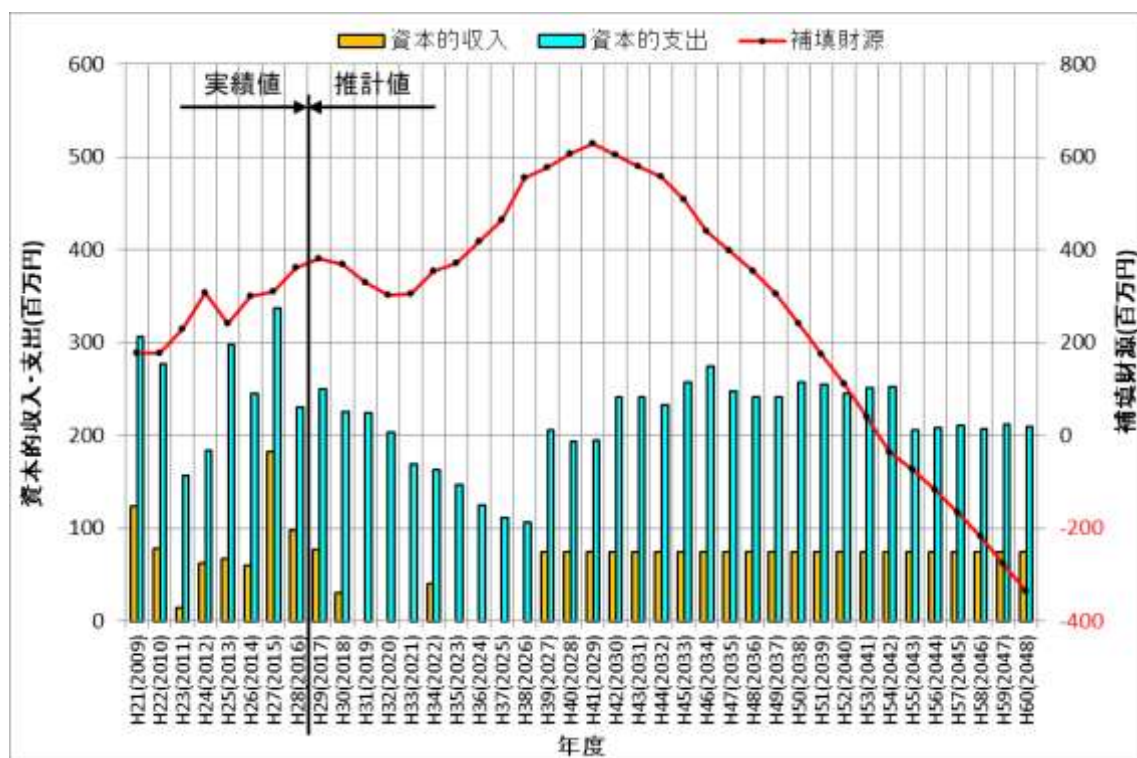


図 13. 資本的収支の推移(計画)



第3章 投資・財政計画

投資計画については、前回計画の基本方針をもとに施設の重要度や規模等のダウンサイジングを含め再検討し、計画的に施設・管路の改築更新、耐震化を進めていきます。

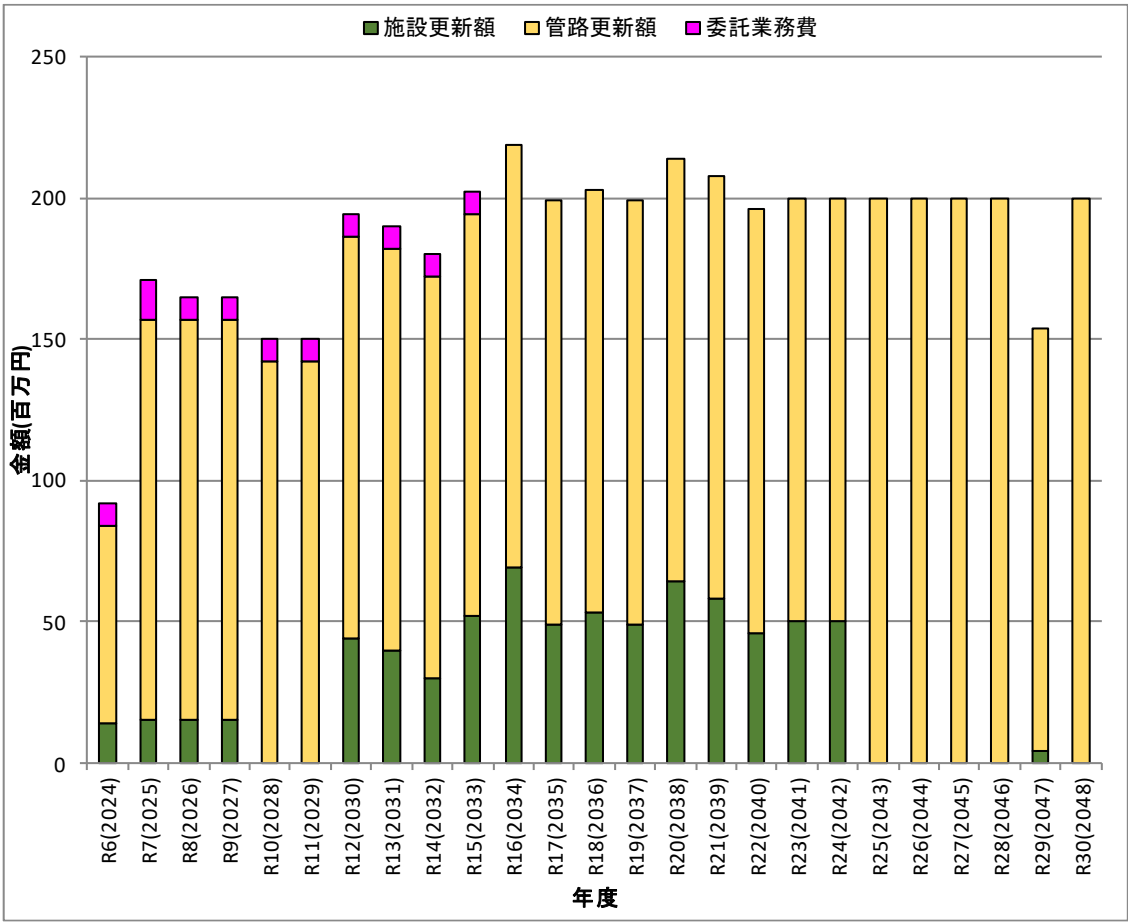
1 中長期の投資額の見込

前回計画では、令和6年度(2024年度)から令和30年度(2048年度)までの24年間で、4,132百万円の投資額を見込んでいましたが、今回見直した結果4,652百万円の投資額を見込んでいます。

表 1. 投資見込み額

項 目	内 容	投資額
施設更新	・ 消毒設備・ポンプ設備・電気設備の更新	718 百万円
管路更新	・ 管路耐震化 ・ 老朽管の更新 ・ 道路改良に伴う管路更新	3, 848 百万円
委託業務費	・ 施設及び管路更新に伴う測量設計業務	86 百万円
合 計		4, 652 百万円

図 14. 投資額の推移



2 財源試算

今回の経営戦略見直しでは、水道料金改定の時期を見直した場合の試算を行います。反映した場合の料金収入、補填財源等の推移は下図のようになります。

※水道料金の改定（見直し）

令和 15 年度(2033 年度)から基本料金を現行料金から一律 200 円増額(税抜き)

令和 25 年度(2043 年度)から基本料金を現行料金から一律 500 円増額(税抜き)

水道料金の改定（計画）

令和 9 年度(2027 年度)から基本料金を現行料金から一律 200 円増額(税抜き)

令和 23 年度(2041 年度)から基本料金を現行料金から一律 500 円増額(税抜き)

図 15. 有収水量と料金収入の推移(見直し)

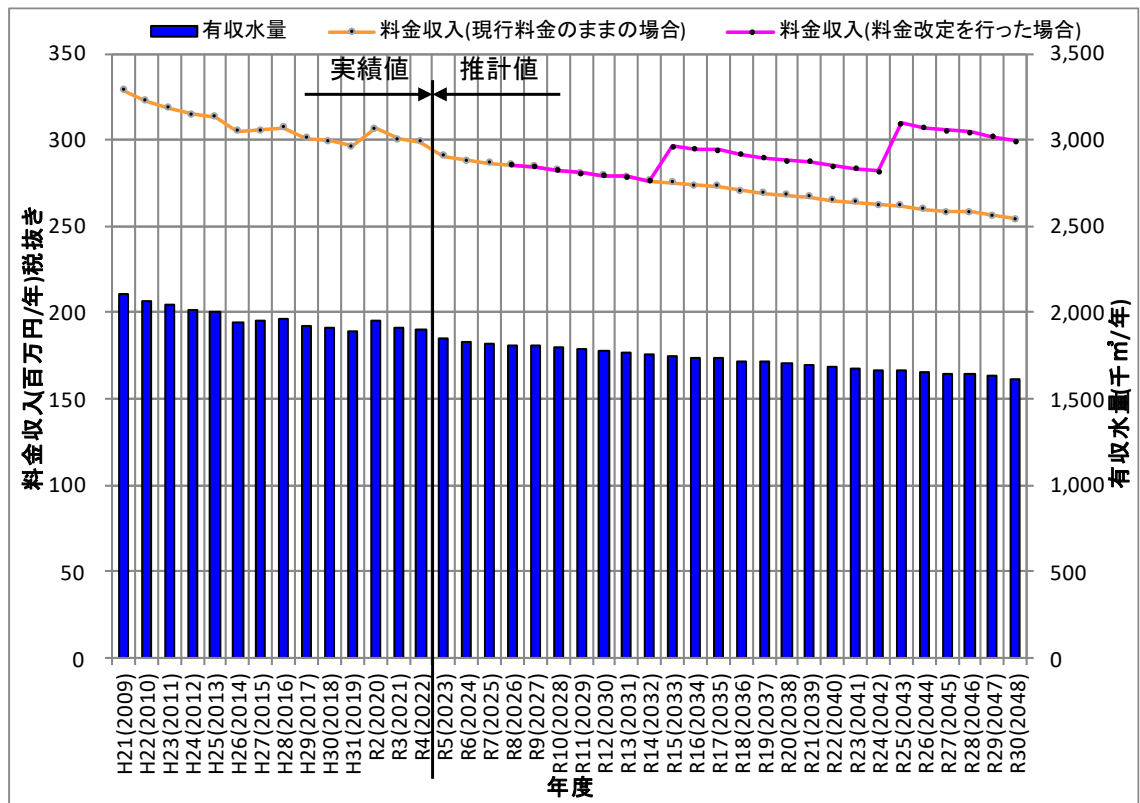


図 16. 有収水量と料金収入の推移(計画)

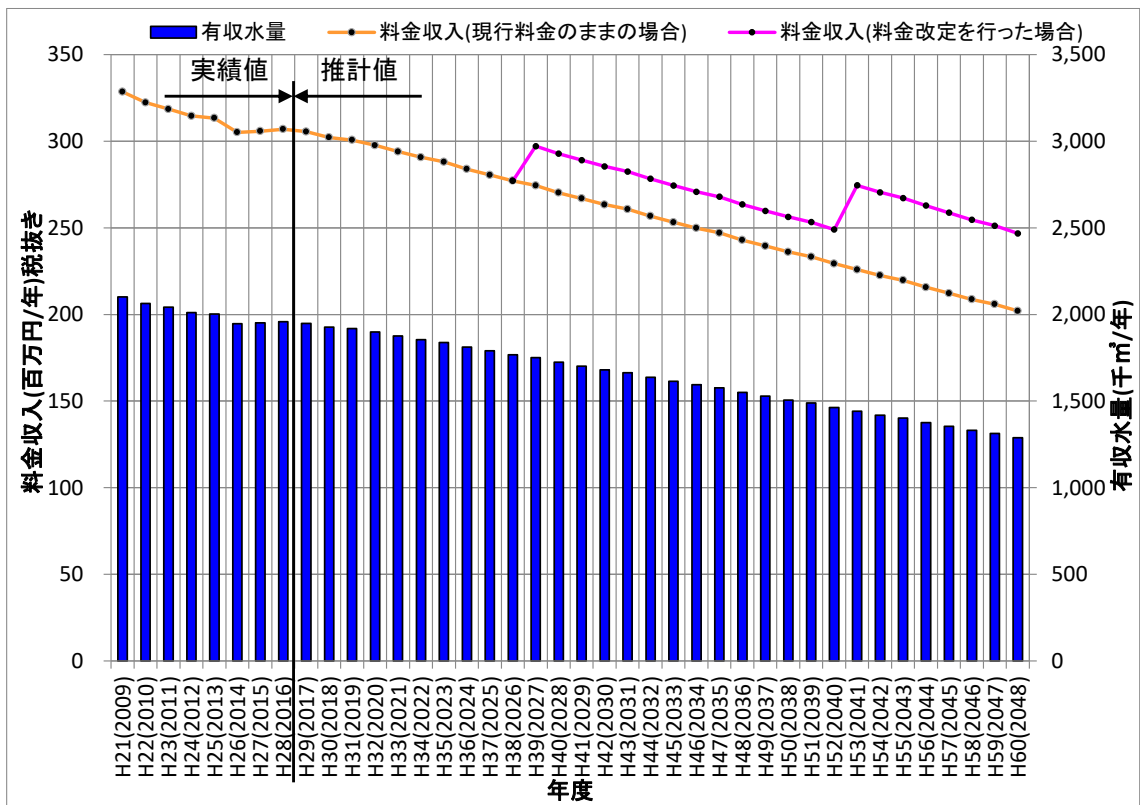


図 17. 供給単価と給水原価の推移(見直し)

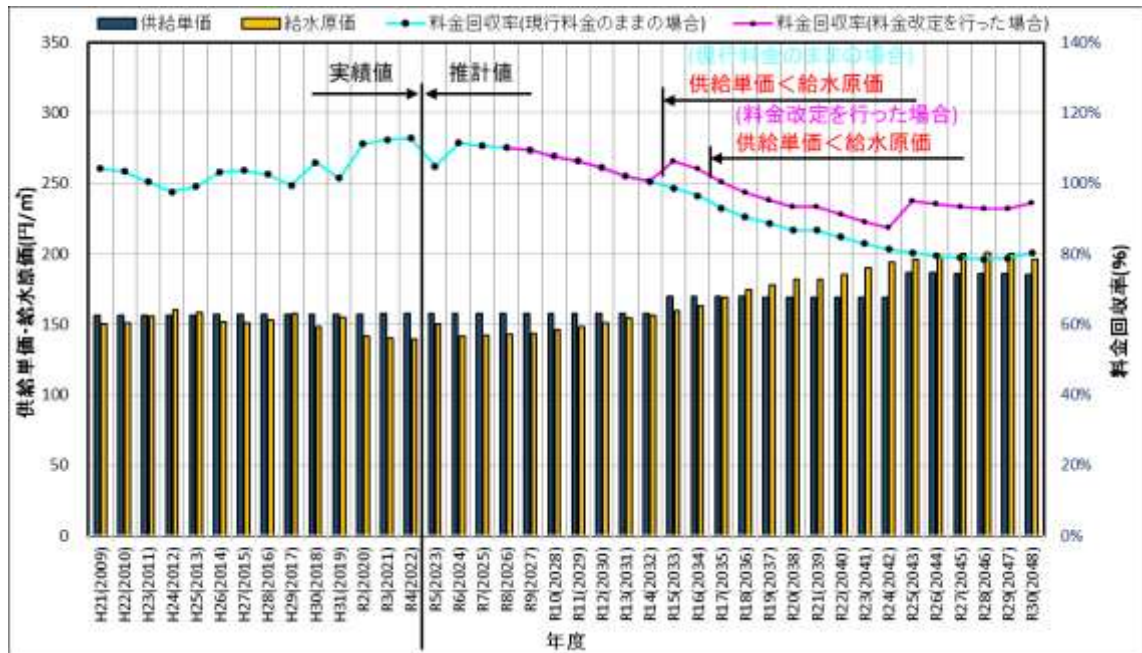


図 18. 供給単価と給水原価の推移(計画)

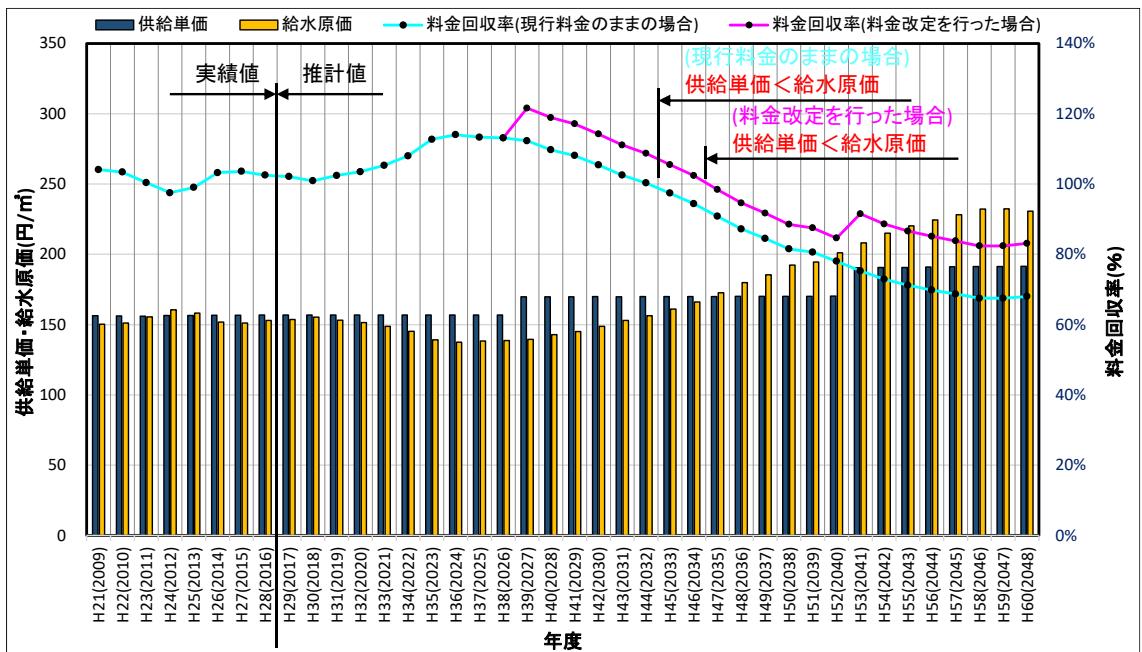


図 19. 建設改良費と料金収入の推移(見直し)

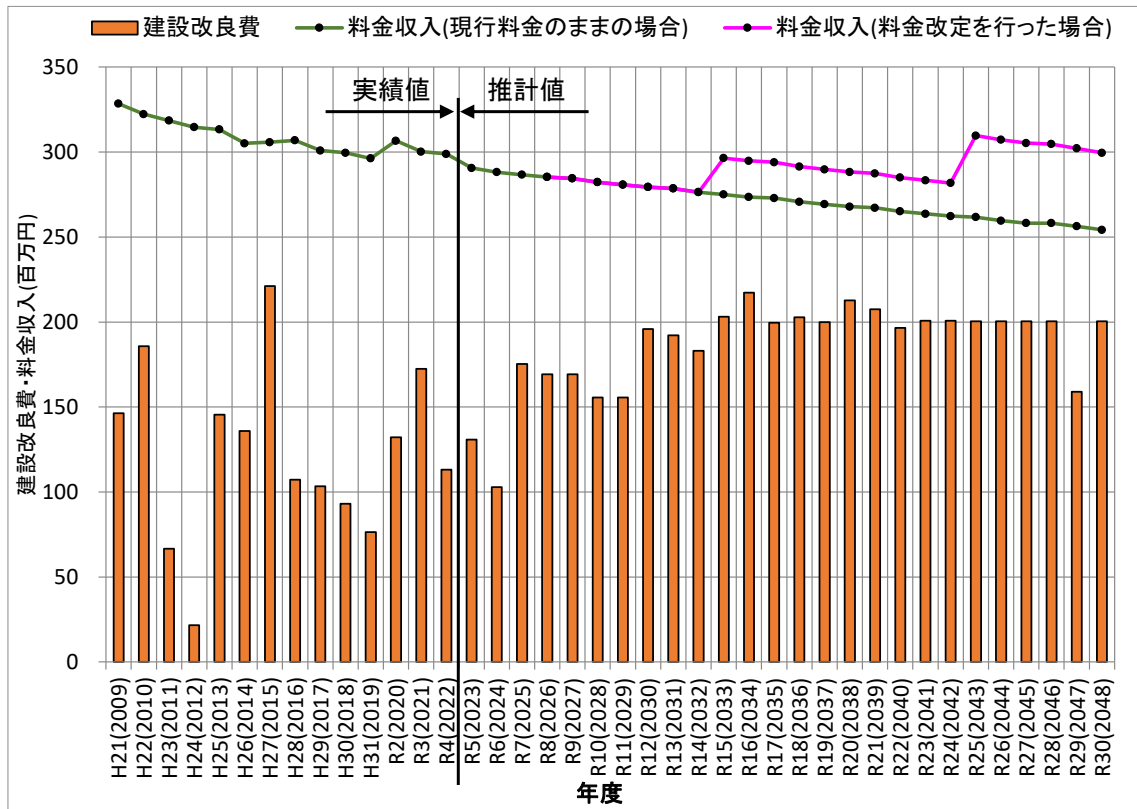


図 20. 建設改良費と料金収入の推移(計画)

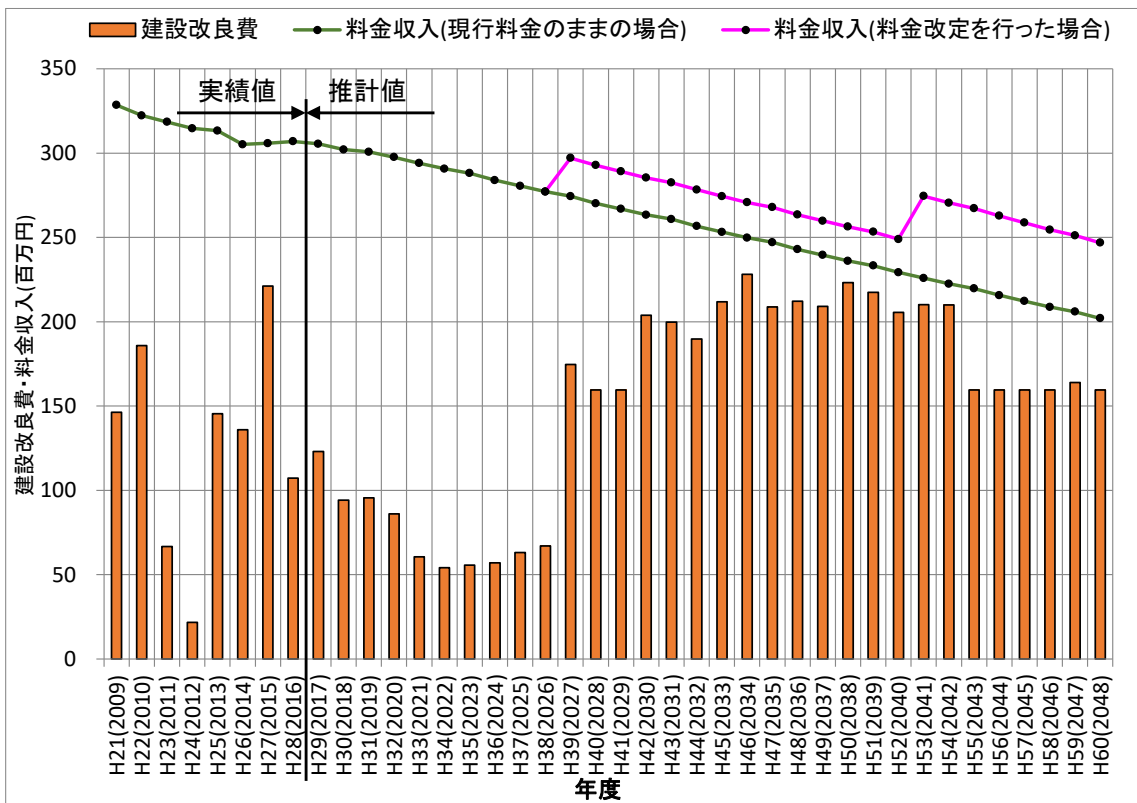


図 21. 経常損益の見通し(見直し)

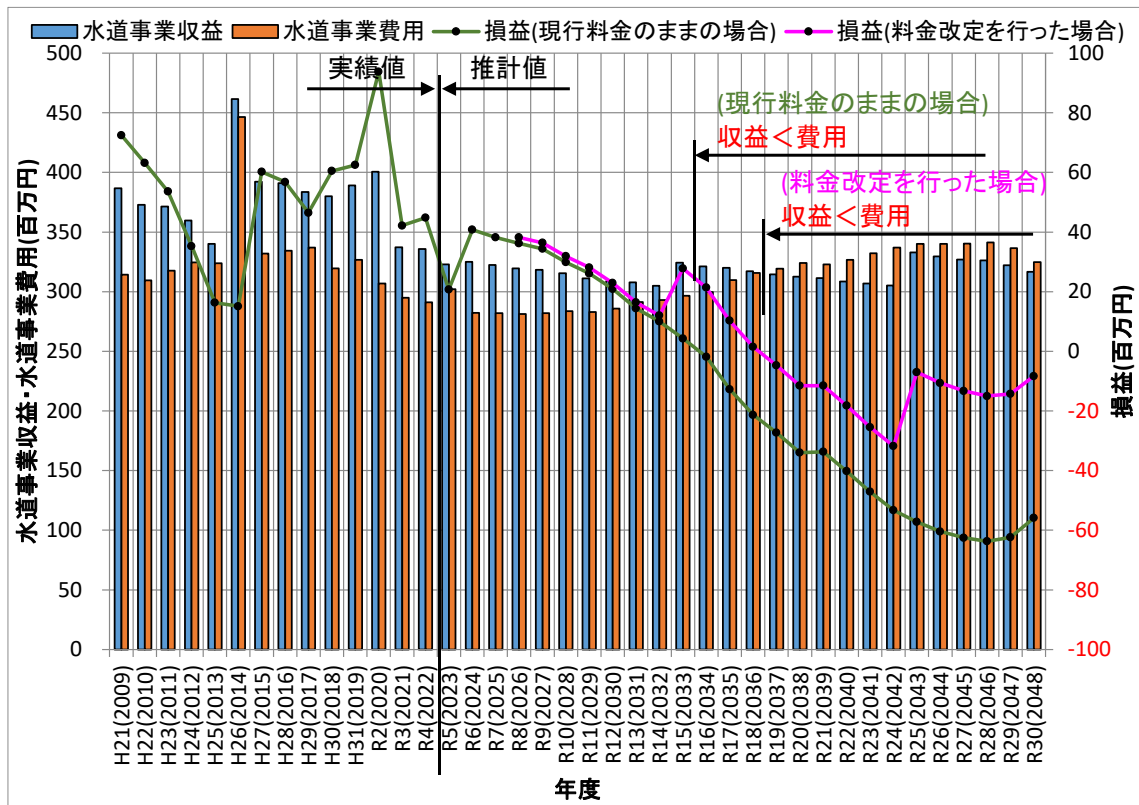


図 22. 経常損益の見通し(計画)

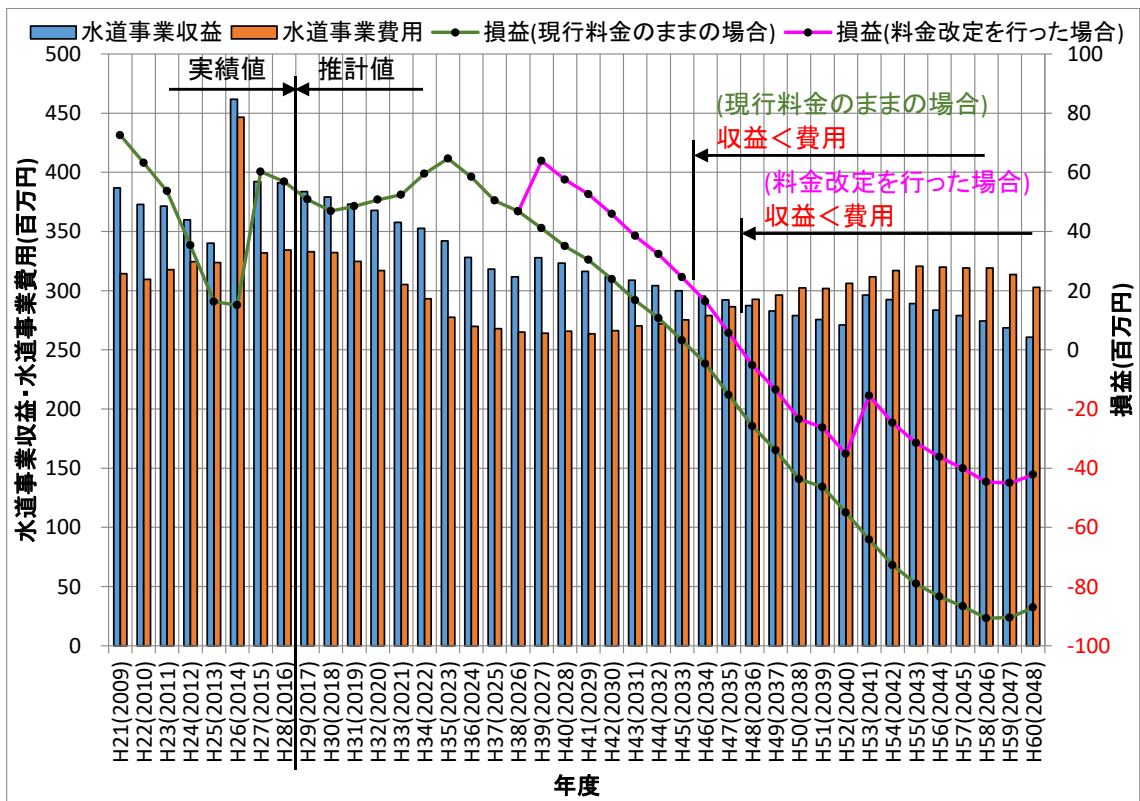


図 23. 資本的収支の推移(見直し)

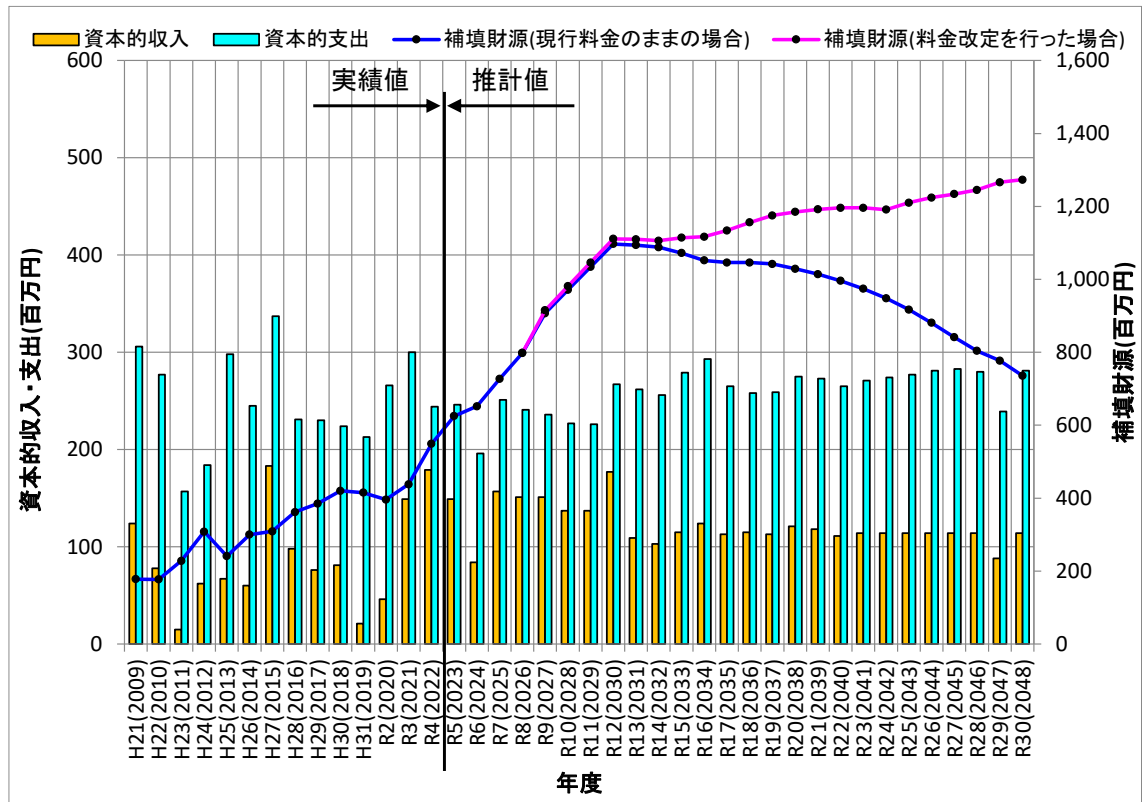
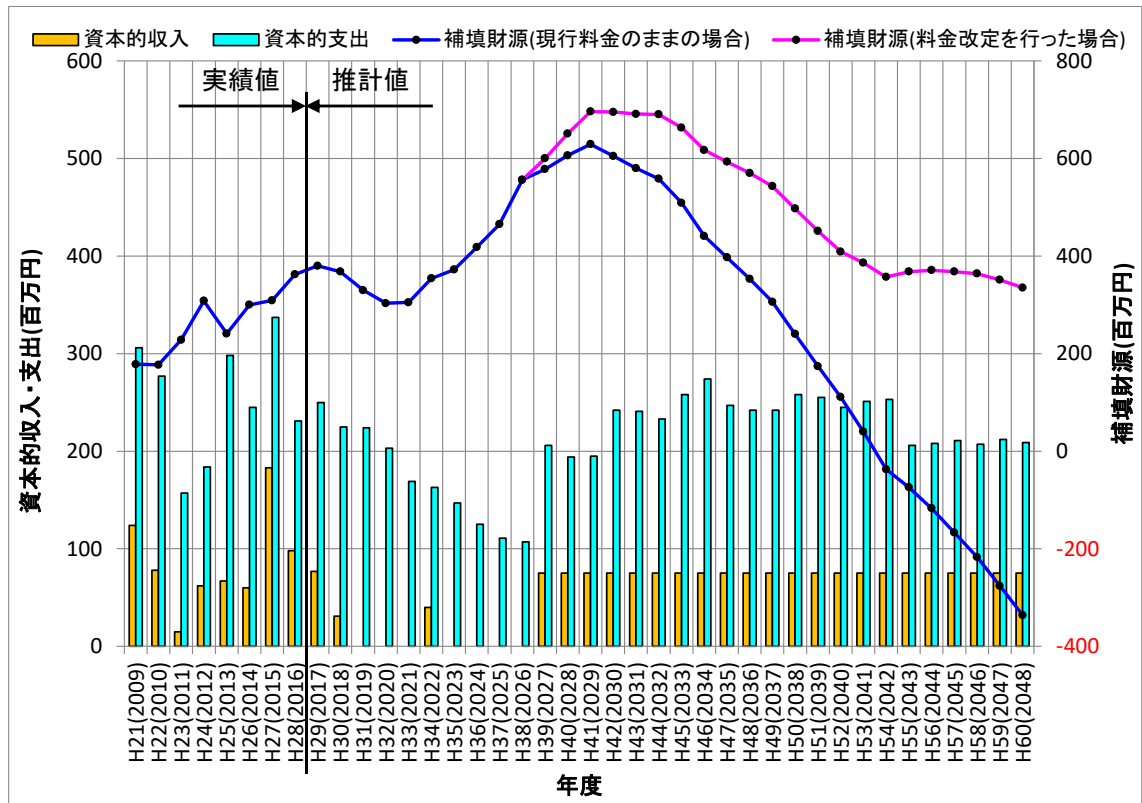


図 24. 資本的収支の推移(計画)



第4章 計画の推進と点検・進捗管理の方法

本経営戦略は、水道課内での検証作業を毎年実施するとともに、5年毎に見直しを行うものとする。なお、今後社会経済環境の変化等により収支見通しに大きな影響を及ぼす事象が生じた場合は、必要に応じて見直しを行う。